

能仁寺中山勘解由三代の墓の秘密？

飯能市立博物館 学芸職員 村上 達哉

ここ数年、飯能市域に遺る武士の墓所を調査・研究しています。具体的に挙げると水戸藩付家老中山家墓所(大字中山の智観寺墓地に所在)と、上総国久留里藩主黒田家と旗本中山家墓所(大字飯能の能仁寺墓地に所在)です。今回は能仁寺中山勘解由三代の墓に関する事柄で気づいたことをまとめておきます。

能仁寺中山勘解由三代の墓は、能仁寺境内中西墓地にある 3 基の墓標の総称で、飯能市指定文化財(史跡)です。被葬者は戦国末期の武将である中山家勝、その息子の家範、さらにその息子で江戸時代初期の旗本である照守の 3 人で、3 段に造成された墓所に上段(北側)から家勝(自然石)、家範(自然石 中段)、照守(無縫塔 下段)の墓標が並んでいます(写真)。中でも中山家範は、八王子城主である北条氏照の家臣として八王子城の合戦で奮闘、城と運命を共にする忠節を尽くした姿が今に伝えられています。忠義の士である家範の名は徳川家康の耳に入り、家康は家範の長男である照守と次男の信吉を、自らの家臣に加えました。照守はすでに述べたように旗本として活躍し、信吉の方は水戸藩の付家老(幕府から派遣された家老)まで出世します。

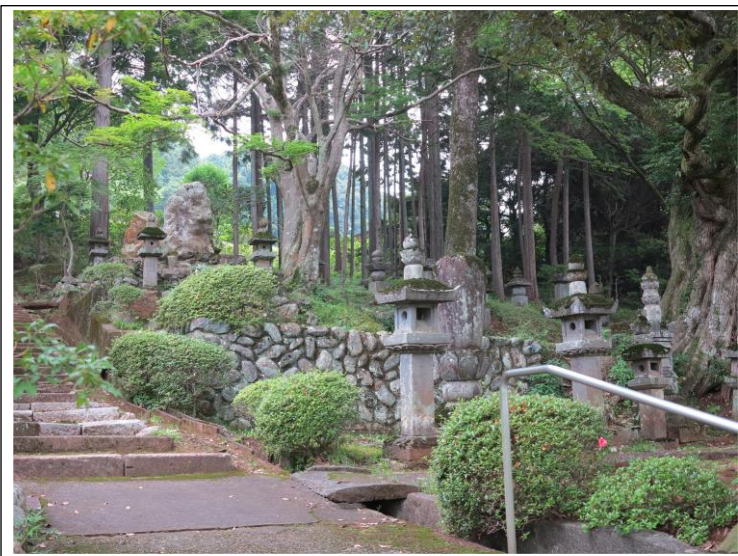


写真 能仁寺中山勘解由三代の墓

最近、黒田直邦(中山照守の子孫で上野国沼田藩 3 万石の大名黒田家の初代。2 代直純の頃上総国久留里藩に転封)のことを調べるのに、上総古文書の会による刊行物を見ることが多いのですが、そのうちのひとつ『御明細録—上総久留里藩主黒田氏の記録—』(初代直邦から 6 代直方までの事績を記した古文書を翻刻したもの)中、初代直邦の事績に気になる一文を見つけました。「一

同年七月中山表能仁寺殿獅鬪院殿御石碑御改建有之/依能仁寺殿百五十回御忌也」とあり、享保 9(1724)年 7 月の出来事です。“能仁寺殿と獅鬪院殿。どこかで見たような・・・”と思ったのですが、「能仁寺殿」は中山家勝の戒名(能仁寺殿大年全椿大居士)を、「獅鬪院殿」は中山家範の戒名(獅鬪院殿本室宗無大居士)を指していることに気づきました。つまり“中山家勝の 150 回忌により、(享保 9 年)7 月に中山に家勝と家範の石碑を改めて建てた”と記してあります。

実は、以前から能仁寺中山勘解由三代の墓については、家勝・家範の墓標はそれぞれが没した時に建てたものではなく、誰かがいつかの時点で 2 基揃えて建てたものと推測していたのです。そして、その「誰か」は“多分、最下段に墓標が建っている照守では？”と思っていたのですが・・・『御明細録』の直邦の事績中に、他に誰かの墓標、もしくは逝去に関する記述を探すことにしました。あるとすれば、直邦の父母についてです。特に、直邦の母については直邦が墓碑の撰文をしており、建立もしている可能性が高いので記述があるはず。確かめたところ、享保 3(1718)年 8 月 22 日の出来事として「一 同年八月廿二日 御母公様御逝去/奉葬武州飯能村能仁寺 御法号/慈廣院殿健徳清勇大姉」とありました。“直邦の母が逝去したので、武蔵国飯能村能仁寺に葬った。法名は慈廣院殿健徳清勇大姉”ということです。では父の逝去については？父中山直張の没年月日である延宝 8(1680)年 11 月 30 日に記述があるか見ましたが、それはありません。先祖の 150 回忌の件と、母の逝去の件が記されているのに、父の逝去の記事はない？ここで一つの可能性が考えられます。もしかすると『御明細録』に記された事績は、主に直邦にとって影響がとて大きいこと(例えば將軍の逝去等)や、直接関わりを持ったことなのではないか(父直張逝去は直邦にとっても重大事であったでしょうが、父の墓標建立は跡継ぎである長兄の直好が行ったと思われる)。だとすれば、家勝・家範の墓標を改めて建てたのは、直邦ではなからうか？

直邦は大鐘の新鑄寄進、黄金の寄進など、能仁寺の外護者としてその再興に尽力しています。能仁寺は先祖が開いた中山氏の菩提寺であるからです。それを考えると、まだ『御明細録』の検討が十分ではない現時点での断定は避けませんが、直邦が先祖(中山家勝・家範)の墓所を再整備した可能性は高いと考えます。

【引用・参考文献】

上総古文書の会『御明細録—上総久留里藩主黒田氏の記録—』平成 18(2006)年